



文化庁委託事業

令和3年度 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業

「日本のバレエ教育に関する全国調査」

日本のバレエ教育環境の 実態分析

『バレエ教育に関する全国調査2021』基本報告

小山 久美(昭和音楽大学)

海野 敏 (東洋大学)

日本のバレエ教育環境の 実態分析

『バレエ教育に関する全国調査2021』
基本報告

小山 久美(昭和音楽大学)

海野 敏 (東洋大学)

1

1.研究の目的と方法

2

研究の目的

- 日本のバレエ教育環境を、バレエ教室を単位とした全国規模の全数調査によって把握
 - バレエに特化した唯一の全国調査
 - 2011年9月 第1回を実施(同年、東日本大震災)
 - 2016年9月 第2回を実施
 - 2021年9月 第3回を実施
- 5年ごとに、バレエ教育環境の実態と変化についての実証的なデータを収集
- エビデンスに基づいて、日本のバレエ教育環境の改善に向けた政策提案を行うため準備

3

研究の方法

- バレエ教育を行っている組織・団体(以下「バレエ教室」と総称)を単位とする調査
 - 全国のバレエ教室の住所を、各種名簿類、ウェブページなど、一般公開されている情報によって可能な限り網羅的に収集
 - カルチャーセンターやスポーツクラブ、バレエ教育を行っている各種学校なども含めた
- 郵送法による調査
 - A4判、4ページの調査票
 - 発送から締切まで約1か月、ハガキによる督促1回

4

質問項目

- バレエ教育環境について17問
- 教室の基本情報、生徒・教師に関する情報
 - 経営主体、バレエ教育の開始年
 - 在籍生徒数、男子生徒数、在籍生徒の年齢層
 - レギュラー教師の人数、経歴、指導者資格、...
- バレエ教育の内容
 - 実施しているレッスンの種類
 - レッソンの音源・楽器、発表会の実施
 - コンクールへの参加、生徒の海外留学、...
- 自由記述質問
 - 日本のバレエ教育についての意見・要望等

5

回収結果

	2011年	2016年	2021年
発送数	4630件	4793件	4489件
回収数	1484件	1557件	1554件
内バレエを教えている数	1335件	1503件	1475件
回収率	32.1%	32.5%	34.6%

6

2.バレエ教育環境の全体像

7

バレエ人口の推定

	2011年	2016年	2021年
教室総数	4530件	4640件	4260件
学習者総数 (人口比)	40.0万人 (0.31%)	35.8万人 (0.28%)	25.6万人 (0.20%)
男子生徒数 (学習者比)	5.5千人 (1.4%)	7.9千人 (2.2%)	7.9千人 (3.1%)
教師総数	1.9万人	1.5万人	1.3万人

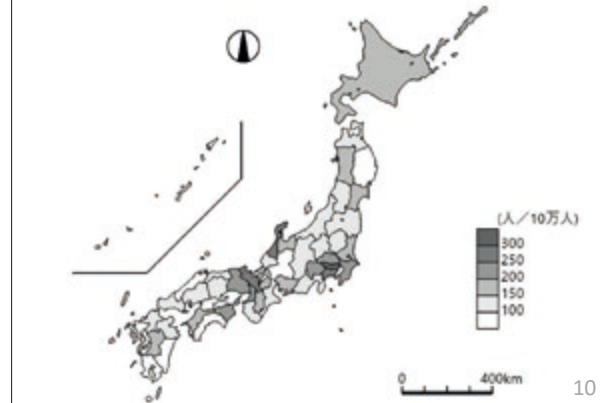
8

都道府県別バレエ学習率

- 日本総人口に対するバレエ学習率を0.202% (10万人当たりバレエ生徒数202人)と推定
- 都道府県別にバレエ学習率を推定
 - * カッコ内は10万人当たりの推定バレエ生徒数
 - 第1位 東京都(401人) 第2位 京都府(289人)
 - 第3位 神奈川県(273人) 第4位 石川県(252人)
 - 第5位 千葉県(248人) 第6位 大阪府(233人)
 - 第7位 兵庫県(230人) 第8位 山梨県(216人)
 - 第9位 徳島県(210人) 第10位 埼玉県(205人)

9

都道府県別バレエ学習率



10

年齢層別の生徒在籍率

	2011年	2016年	2021年
3歳以下	22.0%	21.2%	26.7%
4歳～就学前	84.8%	82.6%	83.1%
小学1・2年	88.4%	85.1%	86.8%
小学3・4年	88.3%	84.8%	87.4%
小学5・6年	83.5%	84.0%	85.5%
中学生	76.8%	79.9%	78.9%
16～19歳	68.0%	71.0%	69.4%

11

年齢層別の生徒在籍率(つづき)

	2011年	2016年	2021年
20代	70.8%	66.3%	67.9%
30代	76.8%	68.8%	61.9%
40代	79.9%	78.8%	73.3%
50代	69.2%	74.3%	77.1%
60代	45.8%	58.7%	65.1%
70代	10.3%	19.5%	36.0%
80歳以上	1.4%	2.5%	5.7%

12

3.バレエ教室の 現状と変化

13

バレエ教室の経営主体

	2011年	2016年	2021年
個人	70.1%	74.7%	71.6%
バレエ団	1.8%	1.6%	1.2%
学校法人	1.1%	0.4%	0.4%
営利法人	23.6%	18.0%	22.3%
非営利法人	—	—	0.5%
その他	2.3%	1.3%	2.9%

(注)2011・2016年は「非営利法人」の選択肢を設けていない。

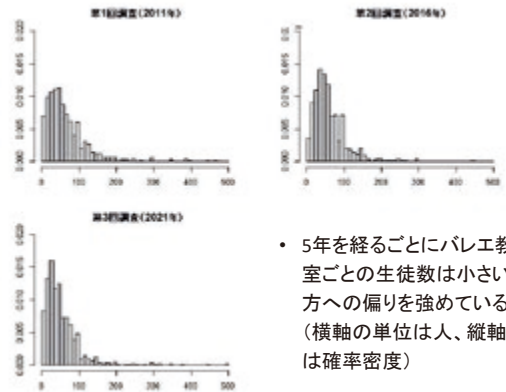
14

バレエ教室の規模

	2011年	2016年	2021年
生徒数 平均値	87.8人	◆ 77.2人	◆ 60.1人
中央値	55人	◆ 50人	◆ 43人
男子平均	1.2人	1.7人	1.8人
教師数 平均値	4.2人	3.2人	3.0人
中央値	3人	2人	2人

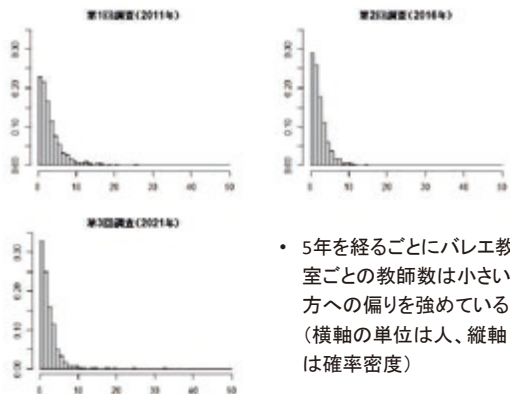
15

バレエ教室ごと生徒数の分布



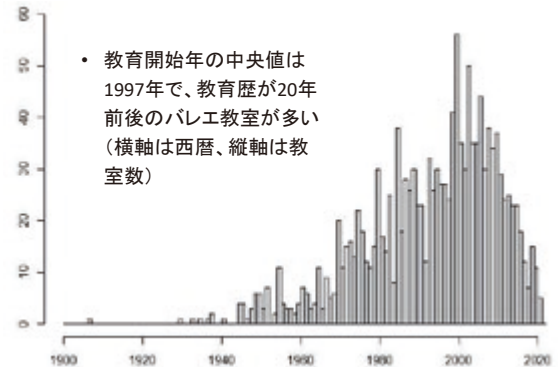
16

バレエ教室ごと教師数の分布



17

バレエ教育開始年の分布



18

4.バレエ教師と教育内容 の現状と変化

19

レギュラー教師の経歴

	2011年	2016年	2021年
バレエ団に現在所属しているバレエ教師がいる	27.5%	22.9%	18.2%
バレエ団にかつて所属していた教師がいる	46.1%	48.3%	44.9%
バレエ以外の舞踊団に現在所属の教師がいる	6.1%	4.4%	2.6%
バレエ以外の舞踊団にかつて所属していた教師がいる	8.8%	9.6%	8.1%
以上にあてはまるバレエ教師はいない	30.2%	32.3%	37.4%

20

指導者資格の取得状況

- 質問「海外には、国家や国際的な組織が認定するクラシック・バレエの指導者資格がありますが、貴教室にはそのような資格を持っているバレエ教師がいますか」

	2011年	2016年	2021年
バレエ指導者資格を取得した教師がいる	15.4%	16.2%	14.0%
バレエ指導者資格の取得を考えている教師がいる	5.8%	7.8%	▲21.8%

21

レッスン種別の実施率

	2011年	2016年	2021年
オープンクラス	33.3%	38.1%	34.2%
ストレッチのクラス	37.9%	41.5%	39.2%
ポアントのクラス	47.5%	▲53.9%	52.0%
大人の初級クラス	72.9%	75.8%	▲62.7%
美容や健康のためのクラス	39.5%	40.6%	▲32.8%

22

レッスン種別の実施率(つづき)

	2011年	2016年	2021年
ヴァリエーションのクラス	29.8%	▲40.3%	39.3%
アダージオ(パ・ド・ドゥ)	14.3%	19.1%	20.2%
キャラクターダンス	5.6%	5.5%	5.6%
プロ志望者向けのクラス	13.3%	15.8%	12.4%
ボーイズクラス	5.6%	6.0%	5.5%
コンテンポラリーまたはモダンダンス	18.4%	20.8%	23.3%

23

バレエ教育に関する各種該当率

	2011年	2016年	2021年
ピアノの生演奏でレッスンしている	9.3%	9.4%	13.4%
発表会を開催する	85.7%	87.5%	87.1%
コンクールへ参加したことのある生徒がいる	51.1%	▲63.1%	65.1%
海外のバレエ学校に所属する(元)生徒がいる	—	12.0%	13.1%
海外のバレエ団に所属する(元)生徒がいる	—	11.9%	13.0%

24

5. バレエ教育現場の意識分析

25

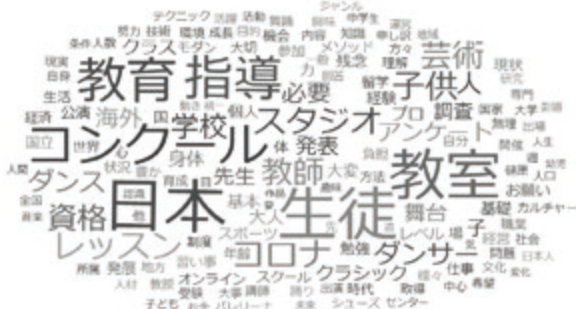
分析手法

- 第3回全国調査の自由記述質問への回答、約5万字に対する探索的テキストデータ解析
 - 回収した1554件のうち448件(28.8%)に自由記述回答あり。総文字数は約52500字
- 語の出現頻度分析を手がかりに、バレエ教育現場が広く関心を共有している課題を抽出
 - 約52500字(約1300センテンス)の全テキストを形態素解析し、語の出現頻度を調査
 - 名詞(数詞、代名詞、形式名詞を除外)の出現頻度1~8位は、「バレエ」、「日本」、「生徒」、「教室」、「教育」、「指導」、「コンクール」、「コロナ」

26

ワードクラウド

- 名詞の出現頻度上位のうち、最上位の「バレエ」を除いた150個の単語から作成したワードクラウド



27

バレエ教育現場の共有課題

- ① 生徒数の減少**
 - 生徒数減少に悩むバレエ教室が多い
 - 生徒数減少の原因として、(1)新型コロナウイルス感染症、(2)日本社会の少子高齢化、(3)ダンス学習における他ジャンル(ヒップホップ等)との競合がおもな原因と考えられている
- ② 新型コロナウイルス感染症**
 - 新型コロナウイルス感染症による行動制限が、バレエ教育環境にきわめて深刻な影響を与えている

28

バレエ教育現場の共有課題(つづき)

- ③ バレエコンクール**
 - バレエコンクールの開催数の多さが意識されており、コンクールブームの過熱に対する批判が多い
 - コンクールブームの過熱に対して、(1)テクニックやヴァリエーション偏重になっている、(2)成長期の生徒の身体に悪影響がある、(3)バレエの芸術性が軽視されている、(4)一部のコンクールが営利目的に走っているという点から批判がなされている

(注)昭和音楽大学バレエ研究所の調査によると、2016年に日本国内で開催されたバレエコンクールは106件であった。

29

バレエ教育現場の共有課題(つづき)

- ④ バレエ教師の資格と資質**
 - 一部のバレエ教師の指導力不足が指摘されている
 - バレエ教師の資質の向上、指導力保証のために、バレエ指導者資格の新設を求める意見が多い
 - バレエ教師が指導法を学ぶための場所を求める声が多い
- ⑤ 公的支援**
 - バレエ教育に対する国および地方行政からの公的支援の不足が意識されている
 - 国立のバレエ学校の設定を願う意見が多い

30